

平成16年(2004年)1月1日発行

12/20就任 柳澤 章 新学長 に聞く

先頭に立って大学を変えろ

実学に根ざした教育・研究を実現

本学では、神馬敬学長の任期満了に伴い、11月27日(木)、新学長に柳澤章教授(60歳)を選出した。任期は、平成15年12月20日(土)から平成19年12月19日(水)の4年間。

柳澤学長は、昭和41年3月千葉大学工学部機械工学科卒業、同43年3月に同大学院工学研究科機械工学専攻修士課程修了、4月から本学・機械工学科に助手として勤務。平成3年に教授となった。本年度4月からは理事および教務部長を務めている。専門分野は生産技術に関する研究・開発ならびに複合材料に関する研究である。同氏の開発した画期的な金属繊維製造技術をもとに、本学とベルギーのスチールワイヤー製造会社であるベカルト社が共同出資し、平成9年にベキニット株を設立したが、この設立・運営にも寄与し、現在、取締役会長の任に当り、企画室では新学長の抱負などを取材した。

問 新学長に就任おめでとうございます。おめでとうございます。まず、就任の抱負をお聞かせください。

柳澤 私、自ら先頭に立って行動することで大学を変え、この激動の時代に対処していきたいと考えています。

また、学内のさまざまな分野で業績のある先生方の力を結集し、本学の目的である「実学に根ざした教育・研究」を実現していきたいと思っています。



抱負を語る柳澤学長

経営者の役割も重要

さらに、これからの学長は、私学の経営者としての役割も非常に重要です。私は大学発ベンチャーを立ち上げた実績を踏まえ、経営の陣頭に立って行動する学長として、これらの経験を、教育・研究の場に活かしたいと考えています。

問 「行動する学長」として、これから4年の任期中に実行したいことをお聞かせください。

最も重要なのは教育

柳澤 「大学の任務は何か」ということで、数学・物理・英語を自分が学ぶ専門

教職員の皆さんと工業教育の理想を追求していきたいと思っています。

私が教務部長であった昨年11月には「低学年教育に対する予算措置」として、総額で1億円の予算を設けました。特色ある教育の明確化・充実、特に学部1、2年生のための教育の充実を図る措置です。今年2月末を目処に、各学科、あるいは複数学科やセンターとの共同計画などを募集し、理事会で審査して、実行に移していきます。

本年度から「融合科目」ということで、数学・物理・英語を自分が学ぶ専門

研究は学園の存続基盤

柳澤 私は、開学2年目からこの大学に在籍しており、その間、学生と共に研究活動をしてきました。教育というものは、授業で教えること以外に、先生が一生懸命に研究している、そういう姿を学生に見せて刺激を与えるというのも大事な教育

問 大学運営に関して、他

柳澤 私は、この大学に足掛け35年在籍しております。お陰様で、教職員、学生諸君はもとより、後援会、工友会、産学交流会に所属する企業の方々や、研究に協力してくださっている企業の方々など、広く交際をいただいております。これから、付属も含めて学園全体としての有機的な連携が大事です。大学の各部局間のスムーズな連携が取れる様、今迄も努力してきましたが、これからもさらに努力していきたいと思っています。

「行動する学長」として、その時々で、適切な判断をくだし、適切な行動をとって、皆さんに評価していただけるよう、努力しようと思っています。

私は、ある意味では、この大学の成長、発展とともに人生を送ってきました。これだけ長く本学に在籍し

●年頭所感●

専門職大学院開設へ

—新学長を迎え、新たな一歩を—



理事長 大川 陽康

い時代に向かって、より積極的な教育研究の改革・実現を期待しております。

さて、現在の混迷する社会状況にあって、実学教育の重要性はより一層強く認識されることにな

て取組まなければならない、重要な課題だと思っております。

幸い昨年は全学で自己点検・評価を行い、その結果を内外に発表して、教職員のそれぞれが自らの弱点を補う努力を始め

ました。これまで以上に、長所を伸ばさなければならぬと思っております。

特に学生諸君にあっては、自らの与えられた学びの場を大切にすべきは勿論であり、学びの姿勢を、教えられる教育から学び取る教育に積極的に変えて行かなければなりません。

ところで、本学では新しい教育研究のひとつとして、東京都心の千代田区神田に新しいキャンパスを設置します。このキャンパスでは、社会人教育の一環として専門職大学院を開設する計画を、現在策定しております。

大学を卒業してから実社会で、五年以上十年程度の実務経験を有する技術者を対象として、工業経営に関する実務上のノウハウを教育し、技術社会におけるスキルアップ、あるいはキャリアアップを図ることを、その目的として掲げております。

言うならば、中小企業における経営戦略や、新事業開発等における課題の発見・解決能力を有する人材の育成を目指しているといつて良いでしょう。こうした専門職大学院設置の背景には、国の内外を問わず、世界に通用するエンジニアの育成が、現在、強く要望されていることが俯瞰図として見えます。

新しい年を迎え、本学も新たな一歩を大きく踏みだそうとしております。今後様々な分野で、様々な試みが現れるものと思えます。それゆえに、本学の建学の精神である「ものづくり」について、教育・研究の両面にわたる、原点に還って再考することの必要性を痛感している次第です。

新年おめでとうござい

ます。

昨年は四年間の学長任期が満了する時機にあたり、新たな学長に機械工学科の柳澤章教授を迎えて、清新な新年を迎えることになりました。新しい

りました。「ものづくり」産業が盛んにならないければ、我が国の経済全般も安定につながらないことは言うまでもありません。この機会にこそ「ものづくり」は、これまで以上にわが大学が全学を挙げ

をお願ひしたいと思っています。同時に専門学校の開設にも取り組んでいますが、将来的には、専門学校の卒業生を本学に受け入れることも考えていきたいと思っています。

問 学園が益々大きく発展いくのは非常に楽しみです。柳澤学長は、この大学で学ぶ学生に向けて何かメッセージをお願いします。

柳澤 学生諸君に、在学中にぜひ見つけてほしいものが2つあります。ひとつは「志」であり、もうひとつは「師」です。

諸君が本学に入学したのは、「エンジニアになりたい」とか「世の中の役に立ちたい」といった目的・目標があったと思いますが、

日本工業大学 平成16年度入試日程					
日本工業大学 工学部					
●機械工学科 ●電気電子工学科 ●建築学科 ●システム工学科 ●情報工学科					
	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
一般入試	1月9日～2月5日	2月12日	「数学」「理科」「英語」上記のうちから2科目選択 (受験日自由選択制)	2月20日	2月27日
		2月13日			
		2月14日			
		2月14日			
社会人入試	1月9日～1月21日	2月14日	小論文及び面接	2月20日	2月27日
書類審査による第1次試験の合格者のみ受験可能 第1次試験の合格発表は1月24日					
帰国子女入試	1月9日～2月5日	2月12日	書類審査及び面接	2月20日	2月27日
A0入試(第3期)	2月20日～2月27日	3月4日	面接、課題への取り組み	3月11日	3月17日

日本工業大学 大学院工学研究科 博士前期課程・博士後期課程

●機械工学専攻 ●電気工学専攻 ●建築学専攻 ●システム工学専攻 ●情報工学専攻

本学で先端技術研究の取り組みを

社会人大学院生 募集! (日本工業大学大学院 社会人特別選抜)

◆平成16年度 大学院 社会人特別選抜入試日程

	出願期間	試験日	試験内容	合格発表	入学手続締切
二次募集	2月7日～2月17日	2月24日	書類選考・面接	3月4日	3月11日

願書のご請求およびお問い合わせ先: 教務部教務課 大学院入試係 TEL0480-33-7507 (直通)

願書のご請求およびお問い合わせ先

〒345-8501 埼玉県南埼玉郡宮代町学園台4-1 日本工業大学教務部 入試室

☎ 0120-250-267 TEL 0480-33-7676 (直通)

URL: http://www.nit.ac.jp/ E-mail: nyu-shi@nit.ac.jp

環境特別講座 魅力ある玩具の発想と開発

—リカちゃんからチョコQまで—

(財)日本玩具財団取締役 石井 幸雄



玩具を手に開発について語る古川幸雄氏

古川氏は、まず、タカラ創業者の佐藤安太氏が福島から大望を抱いて上京し、ビニール加工の零細企業からダッコちゃんを開発、大ヒットし、夢であった玩具

メーカーとなったことから紹介。その後、リカちゃん人形の開発はタカラの名を不動のものとするが、さらに、多角化路線をとり、とくにチョコQは前の2つとともに大ロングセラーとなっている。この時期までのタカラの開発は、「遊びを創る」という社長のロマンの下に個性ある人材が集まって推進してきた結果である。その後、創業者は一大英断で世代交代を図り引退するが、ここで二代目社長の

長男が取ったのが製品としての事業部制であった。これは、当時の流行の経営手法であったが事業部間の交流を欠く結果となりヒット製品に恵まれず、経営は危機に瀕する。そこで、創業者がいったん社長に復帰するが、世代間の意志の疎通が困難であることを悟り、2度目の大決断を行い兄と経営路線で対立し、外で活躍していた若い次男を社長に招聘し、すべてを任せることが大成功を収める。次世代ベゴマ、マイクー体カラオケからバウリンガルまで、ヒットはヒットを呼びタカラは好調を維持している。その成功の原因は、思い切った経営陣の若返り、環境問題を含めて消費者の立場に立ったチェック体制

と、本質は、若い社長のもと、ブレインストミミング、さらにアイデアを纏め上げる手段としてKJ法などを導入し、連想、類似、組み合わせからアイデアを製品に纏め上げていく経営手法にある。それに、企画―実行―観察―評価―対処といったマネージメントサイクルをあわせて実行し、若い、優れた才能を引きだしている。若々しい経営システムにある。これらについて古川氏は具体的な製品を事例にわかりやすく説明した。もちろん、高年齢を自覚し、環境問題を含めて消費者の立場に立ったチェック体制



リカちゃんのお姉さん格のジェニー

開発マイインド、発想法、ブレインストミミングとその実際について学ぶことが出来る。実に多い講演会であった。 (共通系 本木弘徳講師

昨年11月21日、日本玩具文化財団評議員古川幸雄氏による、人と環境の時代を踏まえた「魅力ある玩具の開発」についての特別講演が31325教室において満員の聴衆を集めて行われた。古川氏は、株式会社タカラの三代にわたる社長の片腕として活躍すると共に、玩具産業や地域産業団体とのまとめ役を果たし、現在は、玩具を通じた教育、普及活動をリードしているこの分野の第一人者である。



チョコQ

長男が取ったのが製品としての事業部制であった。これは、当時の流行の経営手法であったが事業部間の交流を欠く結果となりヒット製品に恵まれず、経営は危機に瀕する。そこで、創業者がいったん社長に復帰するが、世代間の意志の疎通が困難であることを悟り、2度目の大決断を行い兄と経営路線で対立し、外で活躍していた若い次男を社長に招聘し、すべてを任せることが大成功を収める。次世代ベゴマ、マイクー体カラオケからバウリンガルまで、ヒットはヒットを呼びタカラは好調を維持している。その成功の原因は、思い切った経営陣の若返り、環境問題を含めて消費者の立場に立ったチェック体制



創立記念式典のステージ



質疑応答に応える石川教授(左から2人目)

平成15年度 出張講義実施一覧

講義名	講義者	高校名
住まい見聞録	建築学科 伊藤庸一教授	兵庫県立兵庫工業高校
ロボット工学	機械工学科 中里裕一助教授	山形県立寒河江工業高校
力の流れと安全	建築学科 白石一郎教授	茨城県立総和高校
どこでもコンピュータの向う側	情報工学科 石川 孝教授	埼玉県立浦和工業高校
デジタル画像処理	システム工学科 星野坦之教授	埼玉県立宮代高校
21世紀のキーテクノロジー	電気電子工学科 菅原和士教授	石川県立羽咋工業高校
半導体その1～6	電気電子工学科 岸 敬二教授	山梨県立甲府工業高校
身の回りのやさしい科学	システム工学科 原 利次教授	千葉県立東総工業高校
レーザーではじめるものづくり	機械工学科 宮澤 肇助教授	千葉県立東総工業高校
ナノテクノロジー	機械工学科 野口裕之講師	千葉県立東総工業高校
人造ダイヤモンド	電気電子工学科 石川 豊教授	千葉県立東総工業高校
光ファイバ通信のしくみ	電気電子工学科 山口義昭助教授	千葉県立東総工業高校
建物基礎と地盤	建築学科 桑原文夫教授	千葉県立東総工業高校
異文化を解きあかす	建築学科 伊藤庸一教授	千葉県立東総工業高校
インターネットの発展と応用技術	情報工学科 丹羽次郎助教授	千葉県立東総工業高校
どこでもコンピュータ	情報工学科 石川 孝教授	千葉県立東総工業高校



吹奏楽団第20回記念定期演奏会では、ソプラノ歌手・持木文子氏の歌と、特別混声合唱団、それに吹奏楽団との共演という吹奏楽では稀な『合唱との共演』に挑戦、終始喝采をあげた。正面後姿が指揮者の山崎氏、左が持木氏。

11月24日(祝)

春日部
市民文化会館

華々しく開催された 吹奏楽団第20回記念定期演奏会

11月24日、本学吹奏楽団の第20回記念定期演奏会が午前の部「ふれあいコンサート」、午後の部「リクエストコンサート」の2回公演で行われ、バラエティに富んだ選曲と演奏で客席を魅了した。

11月24日、春日部市民文化会館大ホールにおいて開催された「日本工業大学吹奏楽団第20回記念定期演奏会」は、午前、午後とも満席になり、午後は入場制限するほどの大盛況であった。20回記念の今年は、指揮者の山崎茂氏のもと団員が一丸となり、その気合と努力はなみなみならぬものがあった。

山崎氏は、東京芸術大学大学院音楽研究科を修了し、新星日本交響楽団(現東フイル)等の奏者・指揮者を経て、現在では埼玉県の音楽監督を務める。また、2002年の「三大テノール・ラスト・コンサート」では、日本歌曲の編曲を手

掛けるなど、全国で多彩な音楽活動を展開し、後進の育成にも力を注いでいる。演奏会の構成は、午前と午後の2回公演。午前の部は「ふれあいコンサート」と題し、子供からお年を召した方々まで誰もが楽しめる曲目10余曲を演奏し、最後に「世界に一つだけの花」を合唱し、会場が一つになった。また、地元の舞踊瑞穂流貴保会や柏壁小学校金管バンドクラブ、大宮北養護学校高等部音楽部の方々にもご出演いただいた。共演は見えて聴いて楽しいステージとなり、今後の吹奏楽のあり方を導く一つの標になったのではないだろうか。午後の部は「リクエスト

コンサート」と題し、アンケートによりカルメンやグレンミラー、童謡、坂本九の曲などバラエティに富んだ20余曲を選曲した。また、地元出身で多くのオペラやオーケストラとの共演・リサイタルなど幅広い活動を行っているソプラノ歌手の持木文子氏と特別混声合唱

団との共演という、吹奏楽では稀な「合唱との共演」に挑戦し、終始喝采を浴びた。さらに、感動のエピソードを「宮代おはなしの会『スウス』」の方々に朗読していただき、ステージは更に盛り上がった。団員たちは2年前から準備を始め、外部団体との交

台湾・高苑技術学院での出張講演

教務部長補佐 情報工学科教授・石川 孝

日本工業大学の姉妹校である高苑技術学院(台湾・路竹市)は、平成15年11月16日で創立14周年を迎えた。この創立記念式典における招待講演として、日本工業大学の教育の特色と情報技術教育の現状について出張講演を行った。会場は同学院の自然史教育館ホールで、約300名の学生および教職員が参加した。講演は英語で行い、同学院の応用外語

市内で工事が行われていた。高苑技術学院は、1986年に高苑工業専科学校(日本の高専のような学校)として設立され、1989年に短期大学として創立し、1999年に4年制大学として開校した。同学院は専門学校と社会人教育部を併設しており、現在の在学者は全体で約1万3千名のことである。開講されている学科は、電子、電機、自動、土木、化学、建築、企業管理、国際貿易、情報通信、応用外語である。約1時間の講演は、工業高校卒業生を主として受け入れている日本工業大学の特色である。体験重視の教育方針、この教育方針に基づく技術研究センターや工業技術博物館、および情報工学科における質疑応答が約30分行われ、日本工業大学の技術教育施設・設備が優れているとい

う感想や、高苑技術学院においても教育の情報化を進めていきたいとのコメントが寄せられた。また台湾はテクノパーク建設によって科学技術の高度化を推進しているのが、姉妹校である日本工業大学との人的交流を図りたいとの意見が出された。今回の出張講演は私の初めての台湾訪問であった。成田を夕方発つて高雄に着いたのは夜9時を回っていたが、高雄市内の所々に夜店がたくさんあって活気が感じられた。後で聞いたところ、あの夜店はナイトマーケットというのだそうで、台湾の人たちは夕食が済んでから家族で出かけるそうだ。また高苑技術学院の記念式典で見かけた学生たちの笑顔や話振りに経済成長を支える活気が感じられた。2泊3日ではあったが、台湾の人々の活気が心に残った旅行になった。今回の出張講演に際し、お世話になった高苑技術学院のみなさまと本学の事務職員のみならず、心より感謝申し上げます。

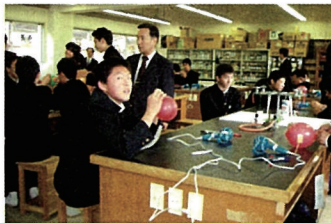
出張講演は学生募集の一環という意味はもちろんあるが、それよりも若者の工学離れという風潮のなかで、工学の面白さ、楽しさを知ってもらうこと、あるいは高校生のあるいは高校生のよりよい進路選択の一助となることなどを主眼に助となっているので、大学の宣伝臭が出ないように注意を払っている。

出張講演は今後さらに講義内容にバラエティを富ませ、講義数も増やして積極的な展開を目指したいところである。

出前授業 繁盛記

大学の授業内容を高校生によく知ってもらい大学に対する理解を深めてもらうことを目的に、大学の教員が高校に出向いて行う、いわゆる「出前授業」(本学では出張講義)が各大学と高校の間で活発に行われている。本学でも一昨年から始め、年々高校からの申し込みが増えている。

出張講義は学生募集の一環という意味はもちろんあるが、それよりも若者の工学離れという風潮のなかで、工学の面白さ、楽しさを知ってもらうこと、あるいは高校生のあるいは高校生のよりよい進路選択の一助となることなどを主眼に助となっているので、大学の宣伝臭が出ないように注意を払っている。



東総工高で授業するシステム工学科・原教授

出張授業は今後さらに講義内容にバラエティを富ませ、講義数も増やして積極的な展開を目指したいところである。

今年度実施した出張講義は左表の通りであるが、高校からの申し込みを待ちしている。(入試室)

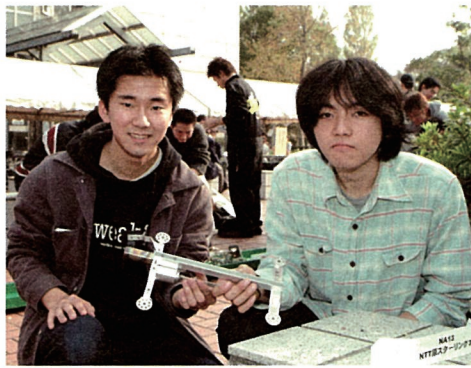
全国から158チームが出場

スターリングテクノラリー開催

今年も11月20日(土)本学で開催予定



大勢の参加者でにぎわう会場風景



ノーマルクラスに出場 吉田君(右)

自作のスターリングエンジンを搭載した車両で、スピードとアイデアを競う「第7回スターリングテクノラリー」が本学を会場に11月8日(土)開催された。

参加チームは158を数え、中高校生、大学生、社会人など幅広い年齢層の参加者が技を競った。

このスターリングエンジンは、スコットランドの技術者であり牧師でもあったロバート・スターリングが1816年に発明したもので、温度の高低によって生じる気体の膨張・収縮をピストン運動に変えて動力を生む。低公害でクリーンなことから、ガソリンエンジンに代わるものとし見直されている。

競技は、①ノーマル(車体長さ600mm以下)、②ミニ(同180mm以下)、③人間乗車(同無制限)の各クラスで所定のコースを走る。

本学からは、システム工学科・原研究室からノーマルクラスと人間乗車クラスに出場した。ノーマルクラスに出場したのは機械工学科1年の吉田創君(世田谷工業卒)で、一般の部・参加25チームのうち、7位の成績をおさめた。

人間乗車クラスに参加したのは機械工学科1年・中村優君(春日部工業卒)、同学科2年・熊谷章君(勿来工業卒)、システム工学科4年の相川渡君(栃木工業卒)と野寄達也君(行田工業卒)の4人。夏頃から車両の設計やエンジンの開発に打ち込んできた。車両の特長は車体に発泡スチロールや硬質ウレタン樹脂などを使い、軽量化を図ったこと。しかし、スタート直前のエンジントラブルで、涙をのんだ。

今年も11月20日(土)に本学で開催する運びとなっている。

工業技術博物館

『くらしの中で活躍する針』の特別展を開催

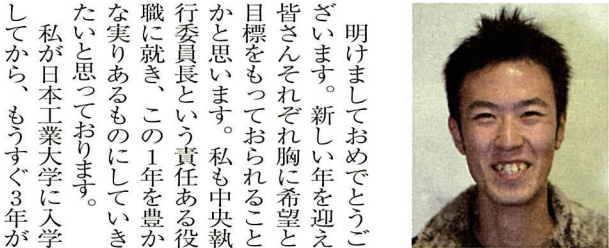
工業技術博物館では、平成15年度の特別展として『くらしの中で活躍する針』を、昔から人間生活を支えてきた針の歴史と生産技術について明らかにします。

に、埼玉県立博物館所蔵の埼玉県秩父郡大滝村の神庭洞窟より発掘された骨製の針、オルガン針株式会

学生自治会中央執行委員会委員長就任あいさつ

これからの学生自治会は前へ前へ出て行くものになりたい

システム工学科3年 後藤 勇輝
(狭山工業高等学校出身)



とどうなっています。この3年間は、大変中身のつまった充実したものでした。入学した頃「大学に入ったから、とにかく何かしよう」と心に決め、数ある委員会・部活動の中から中央執行委員会に入りました。頑張っていると思っていた心は、今も変わらず、充実した大学生活においてとても重要なことだと思っています。

中央執行委員長になって以来、私は「これからの学生自治会は前へ前へ出て行くものにしてほしい」と言ってきました。これは私達学生自治会の活動をさらによく知ってもらい、今後大きく成長していくために必要なことだと思うからです。学生自治会は大変個性豊かな学生が多いのですが、彼らの個性をうまく束ねて伸ばしていくことができれば強力な原動力になるでしょう。これは、やりがいのあることだと思います。

最後に、学生全員のキャンパスライフの充実を目指すという目標の達成には皆さんの協力が必要不可欠です。これからの学生自治会を注目していただきたいと思います。

今回の特別展では、微細な形状に、高度な加工技術を盛り込んで、優れた生産技術により大量生産を実現した様々な針に注目し、針をそれぞれ縫針、釣針、医療針、レコード針、住宅・インテリアの針の5つに分類した。岡田氏が開発した内



特別展入口



熱心に展示に見入る学生達



実物を手に講演する岡田氏

視鏡下外科手術用具は、ソ

『最新医療に活躍する針』内視鏡下外科手術の発展として、特別講演会を開催した。岡田氏が開発した内視鏡下外科手術用具は、ソ

の展示は、非常に好評であった。また、会期中の11月20日(木)には、学友会館のホールにて、講師にオリンパス株式会社医療システムカンパニーMIP事業部・外科事業推進部・シニアプロダクトエンジニア・岡田光正氏をお迎えし、演題を「最新医療に活躍する針」内視鏡下外科手術の発展として、特別講演会を開催した。岡田氏が開発した内視鏡下外科手術用具は、ソ

ノサージトロッカーと称され、世界初の超音波を利用してスムーズに腹部に穿刺する最新の針であり、本特別展にて展示も行った。また、平成15年度日刊工業新聞社の機械工業デザイン賞を受賞している。

第35回 若杉祭開催される

11月1日・2日・3日 盛り沢山の行事で大盛況

第35回を迎えた若杉祭。1日のオープニングセレモニーから始まって、2日はホームカミングデーや「winds」のコンサート、3日は建築コンペの表彰式など、連日盛り沢山の行事で賑わった。

今年の新しい試みは東武動物公園駅と大学との間にシャトルバスを運行したこと。利用者は3日間で1,000人を超えた。また、ほぼ全ての模擬店で「リサイクル容器(環境循環型食品容器)」を使用したのも、

環境重視の本学らしい取り組みだ。

2日のホームカミングデーは、卒業後30年、20年、10年のOBや旧教職員、合わせて142名が参加、過去最高の参加者を迎えた。今年は家族連れも多く和やかな雰囲気。

3日の建築コンペ表彰式には、全国から優秀な成績をあげた高校生、14人が参集。うち8人が女性で、審査員の先生から驚きの声も。後夜祭では、百発の花火が打ち上げられ、今年の若杉祭も無事に幕を閉じた。



若杉祭 屋外ステージで



屋内ではライブ演奏も



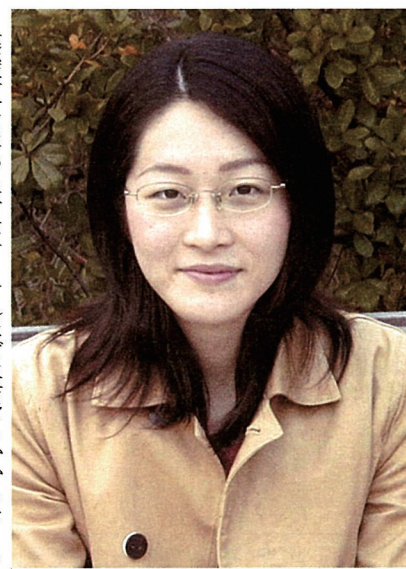
建築学科の展示に子供たちも興味津々



ホームカミングデーの懇親会にはOB・OG・旧職員を合わせ215名が参加した

STUDENT FACE★'04

「こと」と記されている。工友会が会員と日本工業大学の発展を目的としていることを考えれば、この奨学金の採用者は、卒業後も母校のために活動していくことを求められていると言っ



星野景子さん
建築学科4年
(新潟工業高等学校出身)

工友会奨学金で、建築の卒研に集中

建築学科四年の星野景子さん、今回の工友会奨学金に応募し採用された一人である。星野さんの場合は、ひとりで暮らしを始めて、予想以上の出費に驚いた。ひとりで暮らしの難しさは、普段から電話でも何でも分のあまさを痛感した、と振り返る。そして、三回までは日本育英会奨学金と

それほど生活費もかからない。しかし、二年次から金に応募し採用された一人である。星野さんの場合は、ひとりで暮らしを始めて、予想以上の出費に驚いた。ひとりで暮らしの難しさは、普段から電話でも何でも分のあまさを痛感した、と振り返る。そして、三回までは日本育英会奨学金と

